

第135回 **がん診療研修会開催しました**



平成29年12月1日(金)「がん免疫療法セミナー～免疫関連有害事象マネジメント～」と題し、第一研修ホールにて、がん診療研修会を開催しました。

小山 茂医師(当院 第一呼吸器内科部長)を座長に、一般講演には、上野 真由美医師(当院 腫瘍内科部副部長)、特別演題には、聖マリアンナ医科大学病院より、古屋 直樹先生(呼吸器内科講師)、塩川 尚恵先生(薬剤部主任)お二人の講師をお招きしてご講演いただきました。

●がん診療研修会は医療従事者を対象に随時開催しています●



座長
第一呼吸器内科部長
小山 茂 医師

【一般講演】 18:30～19:00

長野赤十字病院 腫瘍内科 副部長 上野 真由美 先生
『当院におけるニボルマブの使用状況について』



当院での、ニボルマブ導入症例は、2016年～2017年9月までの間に49例あり、そのうちの14例に有害事象がみられ、7例が入院加療を必要とした等の報告がありました。

上野 真由美 医師

【特別演題】 19:00~20:00

聖マリアンナ医科大学病院 呼吸器内科 講師 古屋 直樹 先生
聖マリアンナ医科大学病院 薬剤部 主任 塩川 尚恵 先生

『二次治療のIO薬剤選択、どう選ぶか』



古屋 直樹 先生



塩川 尚恵 先生

塩川 尚恵先生より、聖マリアンナ医科大学病院の概要、『免疫チェックポイント阻害薬 有害事象対策チーム「MIST」』の紹介

古屋 直樹先生より、「MIST」について

- ①有害事象時には院内 PHS でコンサル可能（薬剤師→医師へ・看護師→医師へでも OK）
- ②フットワークの軽い経験豊富な医師に固定で窓口をお願いしてある
- ③すぐ対応していただける等

チームの取り組みについてのお話と、同病院で経験された症例の提示をされ IO 薬剤選択の難しさ等お話いただきました。



最後に Take Home Message として Ford の社長 ヘンリーフォードの言葉を引用されていました

人が集まることが始まりであり
一緒にいることは進歩であって
共に働くことが成功をもたらす

◆免疫療法についての疑問点、治療のポイントやチームの取り組みについての質問等、質疑応答もたくさんあがり、情報交換も十分できた充実した研修会となりました。



★長野赤十字病院は国が指定する「地域がん診療連携拠点病院」です。

がん対策は、平成 19 年 4 月に施行されたがん対策基本法の基本理念にのっとり推進されています。

そのなかで、厚生労働省は、全国どこでも質の高いがん医療を提供することができるよう、がん診療連携拠点病院の整備をすすめています。

★地域がん診療連携拠点病院の役割

◆専門的ながん医療の提供◆地域におけるがん診療連携協力◆がん患者さんに対する相談支援及び情報提供

事務局：がん診療連携課（内線 2205）
